



地域と結ぶ

順天堂大学練馬病院ニュース



臨床研修医師25名・大挙入職!!

我が国で医師不足が叫ばれる中、順天堂大学練馬病院では開院僅か2年半にもかかわらず、本年度25名の臨床研修医師が入職します。いずれも多くの入職希望者の中から選抜された俊英であります。病院の第一線で研鑽を積み、患者さまへのサービスに努めます。

血液疾患センター開設にあたって

血液内科 教授 平野隆雄

この度、“血液疾患センター”を開設させていただくことになりました。

1. 血液疾患とは

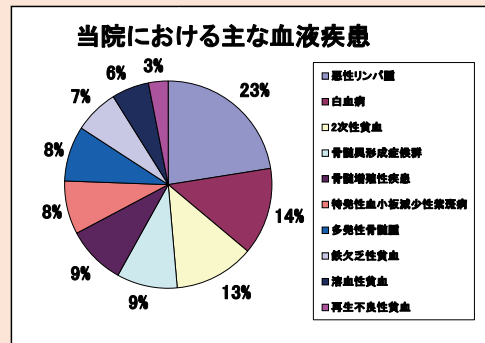
白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの腫瘍性疾患、鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血などの貧血症、特発性血小板減少性紫斑病など出血を起こす病気のことを言います。



教授 平野隆雄

2. 血液疾患 診断・治療の進歩

血液疾患の診断法・治療法はこの5年間大きな進歩を遂げました。従来白血病の治療は、白血病細胞も正常細胞も無差別に破壊する抗がん剤療法が中心でありましたが、近年白血病細胞のみを狙った分子標的治療が劇的な成果を得て以来、本治療が今後の血液疾患治療の大きな流れとなっています。移植治療も骨髄、末梢血、臍帯血を用いた移植が広く行われ、高齢者や臓器障害のある患者さんにも適応されています。



3. 医療連携の必要性

急速の進歩を遂げている血液疾患分野ですが、診療科としては専門性、特殊性が高く各方面への理解が難しいことがございました。“血液疾患センター”開設により、ご理解がスムーズに出来ること、高度な治療(分子標的、移植)を本院、関連施設と連携し行えるものと確信しております。

4. チーム医療

血液疾患の診断・治療において、1.医師グループ(血液内科医、病理・臨床病理医、放射線診断医・治療医、関連外科・内科医、精神科医)2.看護師グループ(外来・病棟、化学療法センター、緩和)3.検査技師・薬剤師グループ(血液検査、病理検査、輸血、薬剤)4.ケースワーカーなど多くの医療グループが患者さんを中心とし充実したチーム医療を行う努力をしています。

最善の血液疾患治療を行うため今回“血液疾患センター”を開設いたしました。血液疾患でお困りの方、ご相談のある方は是非“血液疾患センター”をお尋ねください。

内視鏡センター便り

カプセル内視鏡を始めました

消化器内科 前任准教授 大蔵隆一

順天堂大学練馬病院では、新年度からカプセル内視鏡を導入しました。これは「飲むだけ」の、極めて楽な内視鏡です。

今回導入したのは、小腸用の内視鏡です。

「内視鏡」といっても形はカプセルです。朝、胸からおなかにアンテナシールを貼り、腰に携帯電話くらいの記録装置をつけたベルトを締めてもらいます。



前任准教授 大蔵隆一



そして「カプセル」を飲んでいただきます。画像は、刻々発信されて記録されてゆきます。

夕方に記録装置をベルトごと回収して検査は終了です。

後日、解析した画像を元に病気の診断をします。

小腸は全長5m以上もあり、今まで直接観察する事が非常に難しく、「暗黒の臓器」とも呼ばれていました。カプセル内視鏡を飲んでもらえば、何の苦労もなく小腸全体を観察することができ、適切な治療方法を定めることができます。

将来的には、食道、胃、大腸用のカプセル内視鏡が開発され、全消化管をカプセル内視鏡で観察する事ができるようになるかも知れません。そうなれば、消化管検査で苦しい思いをすることも無くなります。



内視鏡外科センターが設立されました

総合外科 准教授 石引佳郎

当院では以前から積極的に取り組んでいる“おなかを大きく切らずに、小さな穴から内視鏡を挿入して行う手術”を、このたび腹部手術に際して専門の外科スタッフを揃え手術をより安全にスムーズに施行できるよう、そして何よりもこの手術を必要とされる患者さんの要望に応えられるように内視鏡外科センターを設立しました。



石引佳郎センター長

内視鏡手術は患者さんにやさしい手術です！

胃がんや大腸がん、胆石、虫垂炎の手術が対象になります。手術の最大の長所は、何よりも小さな傷で手術ができ、手術後の傷の痛みは軽く、数ヶ月後には傷跡がほとんど目立たなくなります。また、腸の運動の回復が早く早期の退院が可能です。心臓病や糖尿病など大きな病気がなければ、手術の前日に入院していただきます。退院は手術してから約1～2週間前後です。

まずはご相談ください！

日本でもスタンダードになりつつある非常にすばらしい手術方法ですが、すべての患者さんに行なうことができるわけではありません。お腹の手術の経験がある方、また大きながんの方は行なえません。手術が受けられるかどうかについては、総合外科の外来でお話を伺わせていただきます。



乳がんセンターが設立されました

乳腺外科 准教授 藤澤 稔

1. 乳がんは急増しています！

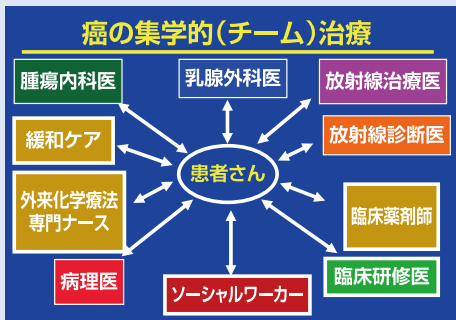
女性がかかるがんの第一位は“乳がん”です。年間4万人以上の方が乳がんと診断されています。患者数は20年前と比較して2倍までに増加し、現在では20人に1人が乳がんになると言われています。ご心配な方は、すぐに「乳がんセンター」を受診してください。



准教授 藤澤 稔

2. 乳がん治療におけるチーム医療の重要性

“乳がん”の治療は、全てのがんの中で最先端に位置すると言っても過言ではありません。各専門家が最新の知識を持ち寄って、常に対話をしながら情報を共有します。これを“チーム医療”として患者さまに提供するのです。わたしたち順天堂大学練馬病院の「乳腺センター」は、この“チーム医療”を柱に患者さまにとってもっとも適切な医療を提供していきます。



ピンクリボンは乳がんの早期発見・早期診断・治療の大切さを伝えるシンボルマークです。

3. 乳がんセンターについて

「乳がんセンター」は、一人ひとりの乳がん患者さまを多くの専門家でバックアップしていくことを目的として立ち上げられました。その構成員は、医師(外科、腫瘍内科、放射線科、病理)・看護師(外来、病棟、化学療法、緩和ケア)はもちろんのこと、薬剤師・病理検査技師・放射線技師・医療福祉相談室など多職種に渡り、常に連携を取りながら“チーム医療”を実践しています。



毎朝8時から行われるカンファレンス風景

膠原病・リウマチセンターが設立されました

膠原病・リウマチ内科 准教授 名切 裕

この度、外来ブースや病棟内に“膠原病・リウマチセンター”の標榜を付けさせていただくこととなりました。より膠原病やリウマチの患者さまたちにご理解いただき、気軽にご利用いただけるようにこの場を借りて説明させていただきます。

この度、“膠原病・リウマチセンター”設立に際して、慢性疾患膠原病のより詳しい全身精査や、治療薬剤の副作用などが起こっていないか、最新の生物学的製剤の導入など、より気軽に受診されたり、入院されたりできるよう努力していく所存であります。



准教授 名切裕

膠原病とは、聞きなれない方も多数いらっしゃると思いますが、全身性の自己免疫性疾患のことを言います。でも、これではわかりにくいと思われるのでもう少し簡単に言い直します。免疫という身体の自衛隊たちのなかで、一部が過激派集団に生まれ変わり、自分の身体を守るところか自分の身体や臓器を攻撃して起こる病気のことを膠原病と言います。膠原病の中で、関節ばかり攻撃されるのを関節リウマチ、皮膚ばかり攻撃されるのを強皮症、筋肉ばかり攻撃されるのを筋炎と言うように、攻撃される場所によって診断病名は変わります。また、膠原病は前述のとおり全身性の疾患ですので、まれに肺や心臓、腎臓や消化管、脳など全身臓器に障害が及ぶこともあります。

このように申し上げると、非常に怖い病気のように思われますが、最近ではステロイド剤、免疫抑制剤や生物学的製剤などの様々な治療薬が開発され、治療がうまく軌道に乗れば、長く上手に付き合ってください慢性疾患となってきます。

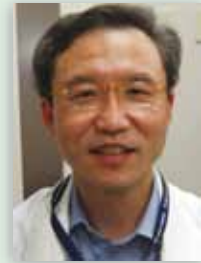
何卒、今後とも膠原病・リウマチ内科をよろしくお願い申し上げます。



頸部頸動脈病変のステント治療について!

脳神経外科学 准教授 堀中直明

脳の血管が急に閉塞して倒れてしまう病気が脳梗塞です。この脳梗塞の原因の一つとして頸部内頸動脈狭窄症(閉塞は完全に閉塞してしまった状態を示し、狭窄とは細くなっているが閉塞していない状態を示します)が最近注目されてきています。これは糖尿病、高血圧症、肥満、高脂血症といった生活習慣病がアテローム性動脈硬化をきたし、頸部内頸動脈が細くなり、ここに血栓(小さな血のかたまり)が形成され、血液の流れに乗って脳まで流れ、脳の血管を詰まらせるか、または血管が細くなることで、脳の血流が悪くなり脳梗塞を発症します。最近の食生活の変化や生活習慣病の増加に伴い年々発見率が増加しており、また虚血性心疾患と頸部頸動脈狭窄には有意な相関関係が多く報告されています。



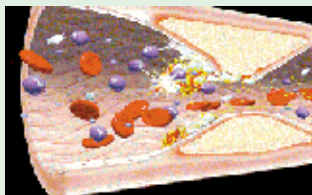
准教授 堀中直明

診断について

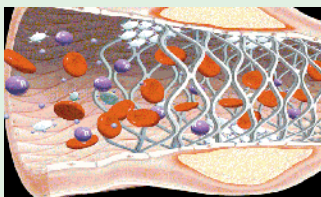
外来時診断には、最新のMRA(magnetic resonance angiography)を使用することにより、騒音下の閉所で5分間程度辛抱する必要があることを除けば、非侵襲的な検査であり、頸動脈超音波検査と並んでスクリーニングには非常に有用となっています。

治療について

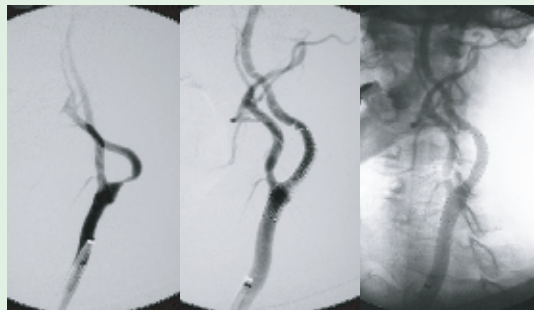
頸動脈狭窄病変に対して、従来から外科手術的にアテロームを切除する頸動脈内膜剥離術(CEA)が行われてきましたが、近年、侵襲治療として頸動脈ステント留置(CAS)などの血管内治療が行われるようになってきています。但し、CASでは再狭窄などの長期成績が現時点では不明であることも考慮しておく必要があります。



アテローム動脈硬化による血管狭窄



血管内ステント留置術後



手術前

手術後

ステントの形状

地域が、病院が、患者さまが育てる 順天堂大学練馬病院研修医

平成20年4月から毎年25名の初期臨床研修医を迎えます。全国の研修希望者から俊英が選ばれました。かれらはこの順天堂大学練馬病院で医師としての第一歩をスタートします。



医師にとっては患者さまが先生です。地域で、病院全体で、そして患者さまによって、一人前の優しい医師に育ててほしいと願っています。

皆さまには、あたたかい目で見守っていただけますようお願い申し上げます。



**順天堂大学練馬病院は医療を通じて
地域社会へ貢献していきます!**

*臨床研修医教育のためのご寄付を募集いたします。詳しくは総合受付まで。

